

● 玉縄の学校長

鎌倉市立玉縄小学校  
校長 八神 陽介 さん



この4月に玉縄小学校に着任。先日6年生の修学旅行に同行した。日光への一泊二日の行程を共にし、チェックポイントに立つなどした。

「校長になると直接子どもたちとふれあう機会も減りますが、それでも人懐っこい子どもたちで。楽しかったですよ。」

中学校の英語教師として20年、その後教育委員会、大船小学校長、再び教育委員会に勤務。校長としては2校目となる。

\* \* \* \* \*

### 校長としての「学校づくり」

——玉縄小学校の印象はいかがですか。

「まず学校の規模、そして学区が大きいと感じました。大型マンションも多い地域で1学年3クラス規模。児童数もぐっと多く感じます。朝会で月に1度私の話があるのですが、例えば1年生にも分かるように話そうとすると6年生には退屈かもしれない。それでも小さい子たちのことを思いやって上級生がよく聞いてくれる。いい子たちだなと思います。」

——玉縄地域の印象は。

「教育委員会にいた頃から、地元自治会が活発だと聞いていましたが、みなさん本当に協力的で、朝夕の見守り活動なども大変ありがたく感じています。保護者の活動もとても盛んです。」

——モットーとしていらっしゃる「共育&響育」について教えてください

「共に育ち、共に育てる、共育。そのためには子どもたちが、教師が、保護者が、また地域の皆さんが声を上げてほしい。その声が響きあう中で子どもたちが育っていくのが理想的だと考えています。校長として学校づくりに取り組むようになってつくづく感じていることです。今は子どもを学校だけ、家庭だけで育てるのは難しい。地域のみなさんとの連携を今後も強化していければと思っています。」

——玉縄中学校、玉縄小学校、植木小学校、関谷小学校、いわゆる玉中学区で協働の取り組みが行われているとうかがいました。

「小学校の6年間と中学校の3年間を一貫した9年間の教育ととらえる『小中一貫教育』が現在鎌倉市全体、中学校のブロック毎に進められています。小学校卒業で区切るのではなく、一貫した『目指す子ども像』を共有し、滑らかで連続性のある教育、学びに生かそうという取り組みです。教師間の交流や、学年を越えた交流などが既に始まっていて、みなさんにもご理解ご協力いただくべく周知を図っていこう、というところです。」

\* \* \* \* \*

## 教師になったきっかけ

——先生になられたきっかけを教えてください。

「先生になりたいというのは子どものころから思っていました。子供会やボランティア、ボーイスカウトなどでリーダー的な立場を経験したのですが、そういった活動を通して小さい子どもたちと過ごす時間がとても楽しかった。それで自然と育まれた思いでした。もちろんこんなふうになりたいな、と思うような素敵な先生たちとの出会いもたくさんありました。」

——英語の先生を選んだのはなぜですか。

「実は英語は嫌いだったんです。高校時代も大の苦手。どちらかというとなり数系で、答えがハッキリしているのが性に合っていました。でも大学進学時に、もしこのまま数学の教師になったら、つまずいている子に何でこんなことわからないんだって言うてしまうかもしれないと思った。英語ならできない子の気持ちわかる。一緒に考えて、一緒に学べる。自分はそういう教師になりたいと思ったんです。それで英文科へ進みました。」

——部活動の指導などは。

「男子バレーボール部の顧問を6年、その後は野球部の顧問を14年。朝から晩まで一緒になって泥まみれの汗まみれでした。でもそうやって子どもたちと共に過ごす時間こそ教師になった理由でしたので、苦になるということはありませんでした。」

——校長先生になられるとそういった機会はなかなかありませんね。

「今は月に一度の朝会での話が私の授業です。1年生から6年生までの子どもたちに届く話というのがなかなか難しいんですが。かたや言葉を学び始めたばかり、かたや思春期を迎える年頃。それでもできるだけ心に残る話をしたいと思っています。」



逗子市育ち（小学校4年生から）。子供時代は「とにかく外で遊ぶのが好きで。やんちゃでしたね。」豊かな自然の中をかけ回って育った。まだ造成中で家のなかった逗子ハイランドが格好の遊び場だったのも懐かしい思い出。

趣味は登山。もともとテント持参で家族旅行をするなど、キャンプやアウトドアには慣れ親しんでいたが、50歳を過ぎて本格的に始めた。百名山に挑戦中で現在すでに30ほどを踏破。登山で大事なものは「無事で帰るという意志」。

三児の父。毎朝の愛犬の散歩が日課。